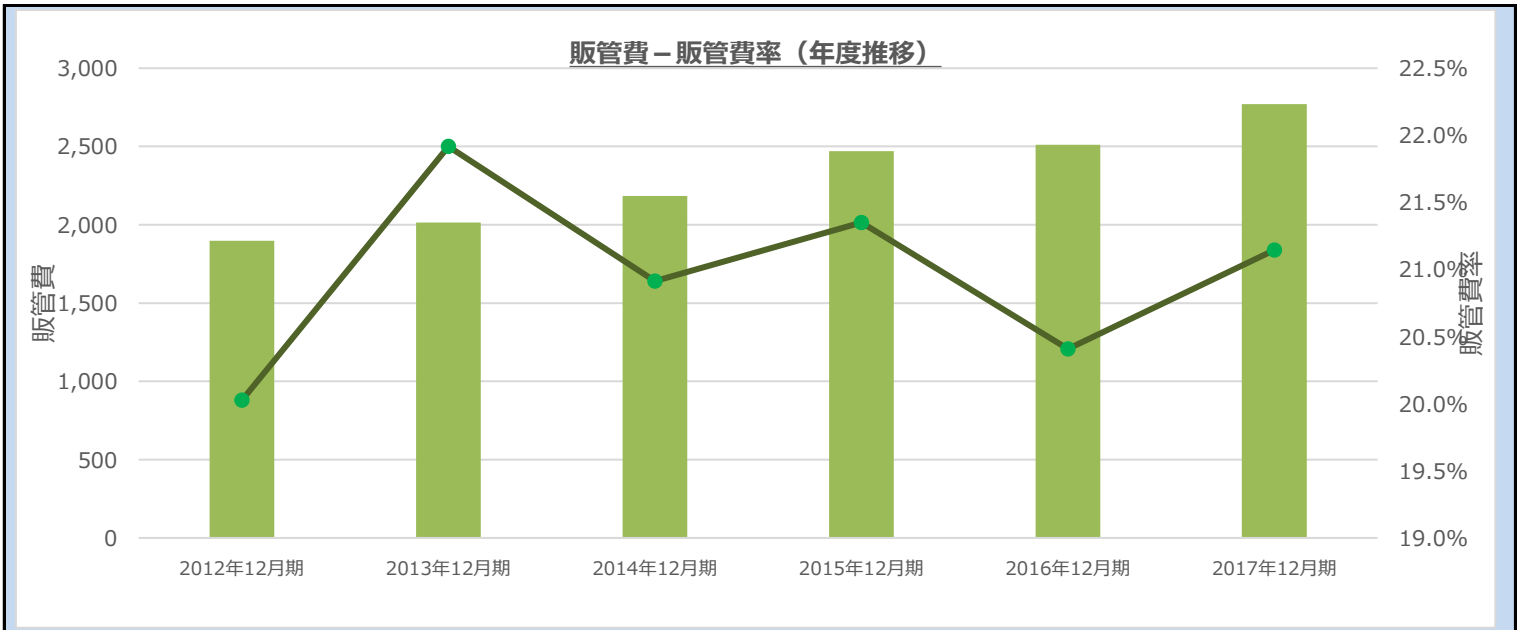
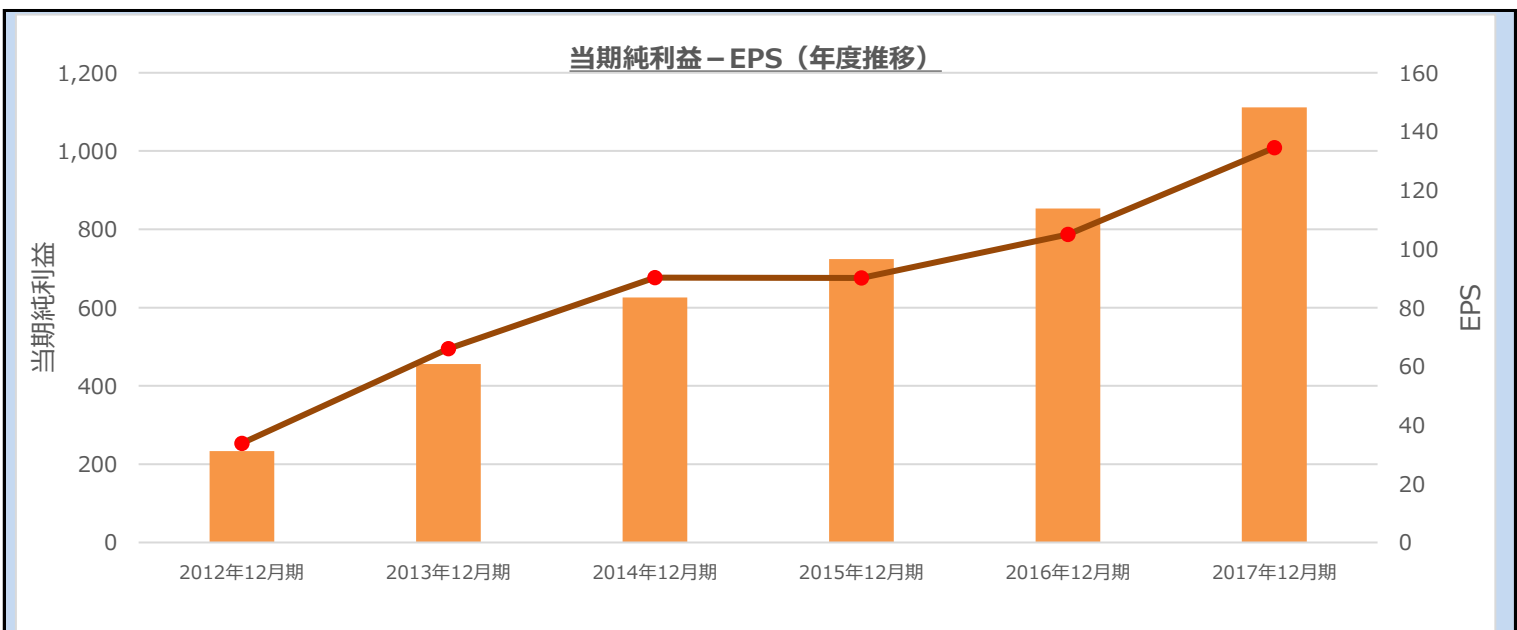


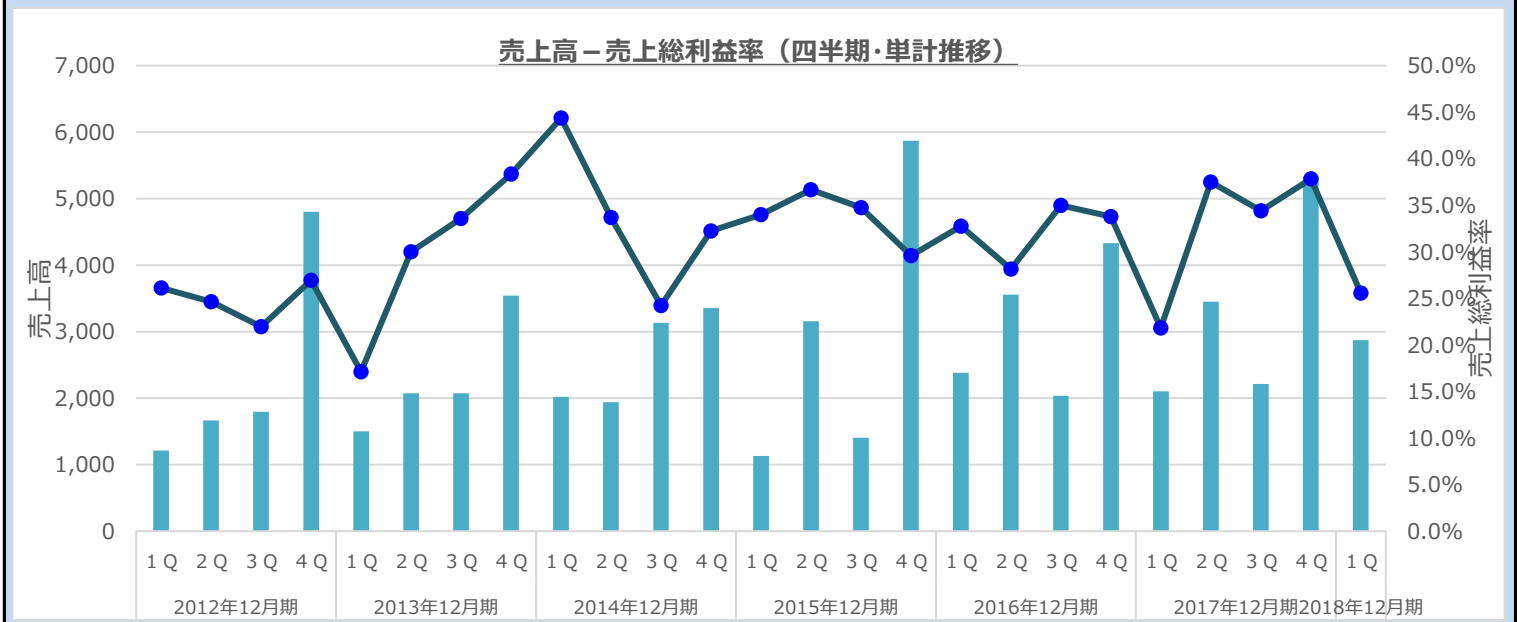
仕入環境の強弱により売上高は多少の凹凸が見られるが、採算性管理が徹底されており粗利率は安定推移。直近で外部環境も手強い上向き。



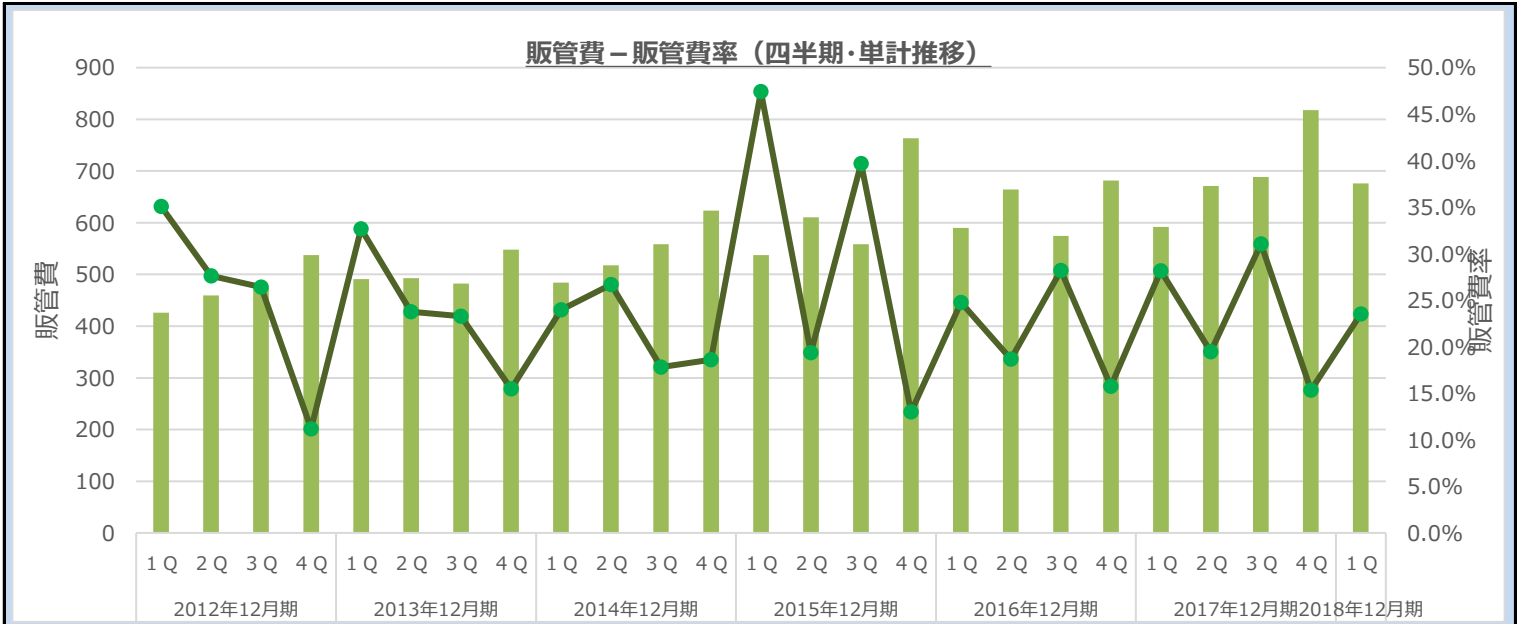
販管費はエリア拡張などを段階的に進めており増額傾向。販管費率はトップラインの変動もあり凹凸がみられる。



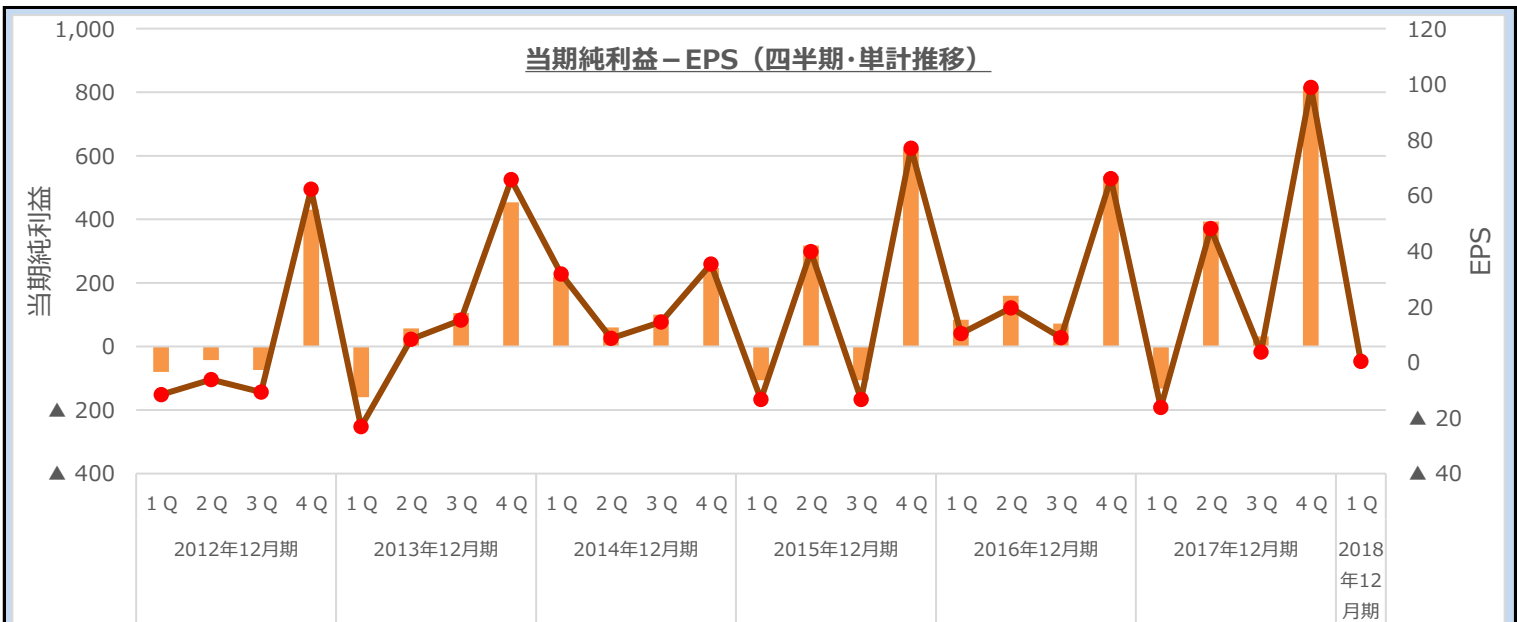
純利益は右肩上がりに成長し、直近ではEPSの伸長も大きく推移。今後はややマイルドになる見込み。



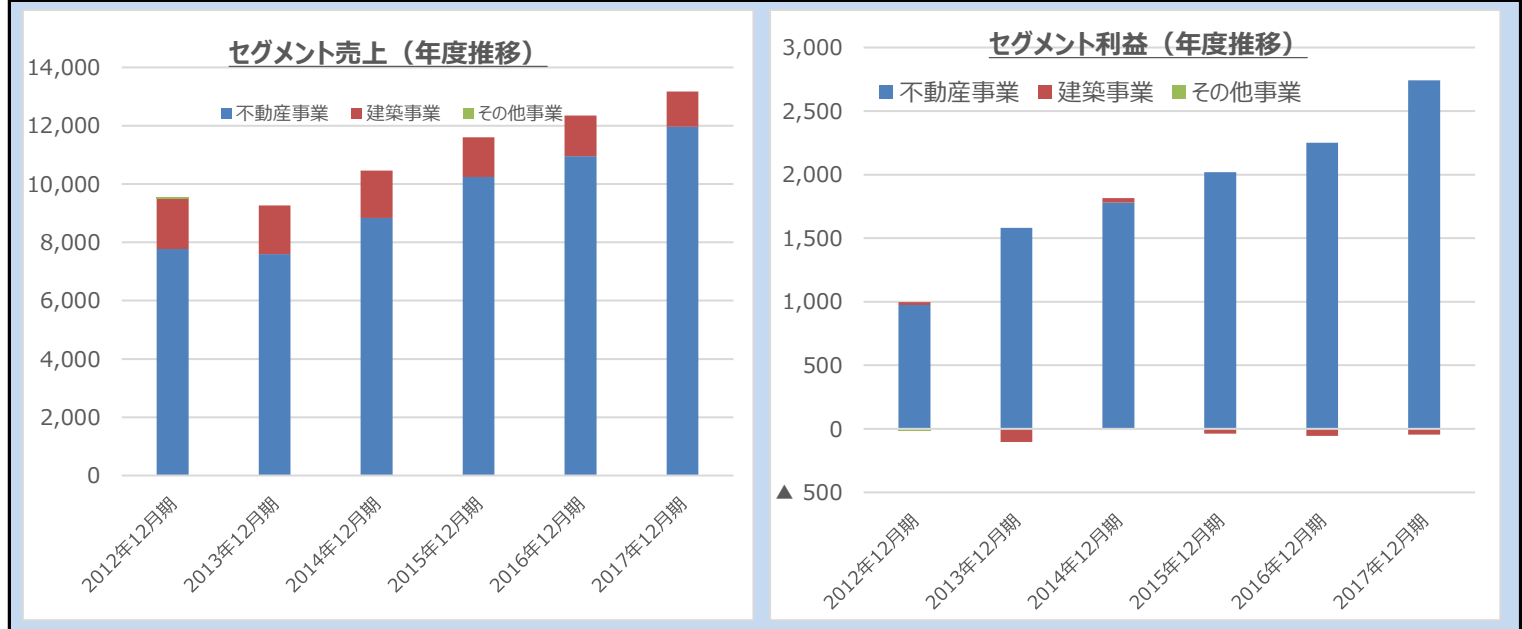
仕入環境の強弱による四半期単位で見ると凹凸が激しく、また売買タイミングのずれもあり、利益率も四半期では不安定。→四半期は意味なし



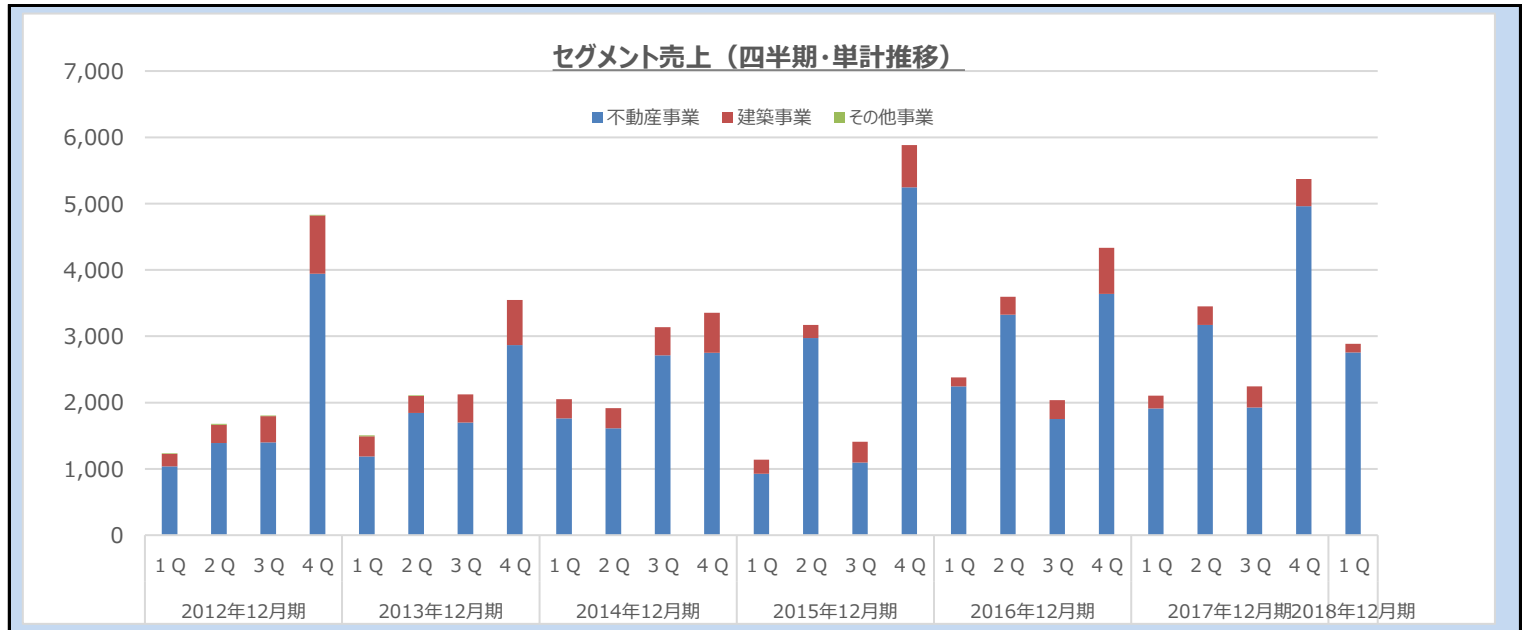
販管費は4Qにやや偏重しているようにも見える。販管費率は売上の不安定さの影響による凹凸。→四半期は意味なし



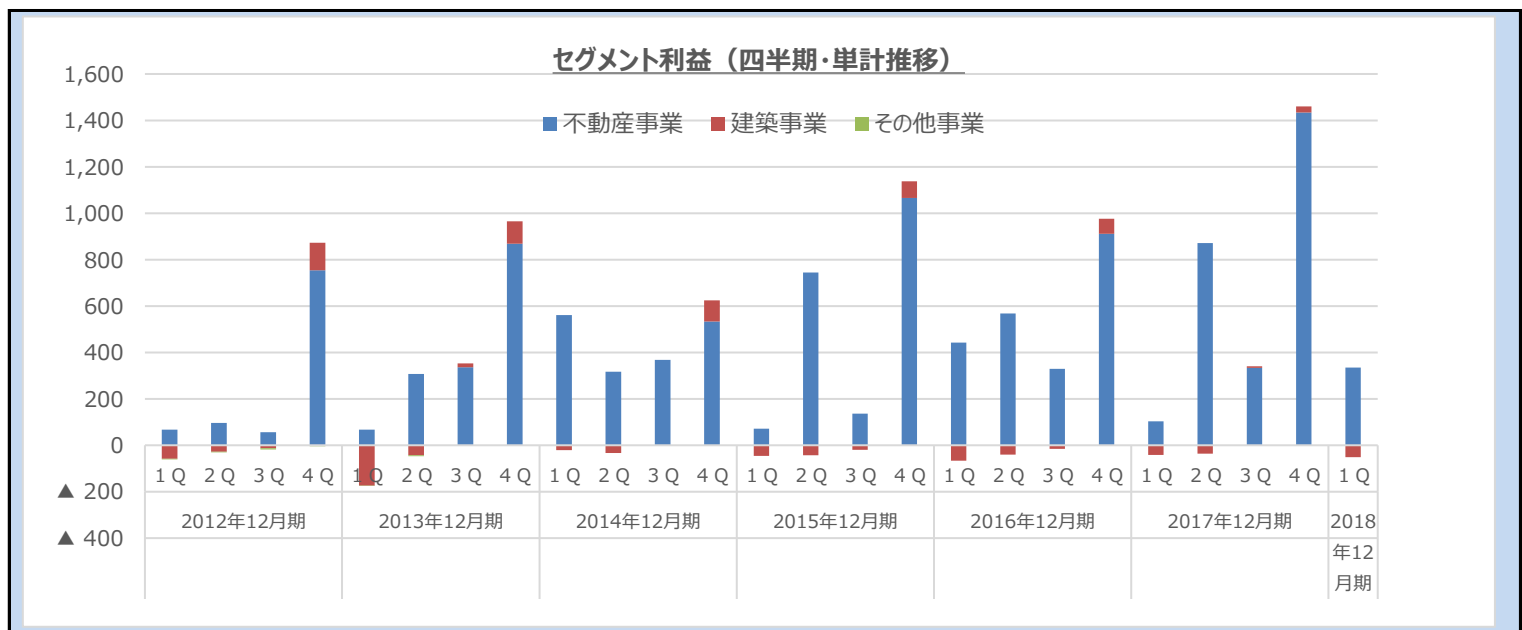
上記記載通り四半期の動向は確認しても凹凸があり意味なし。今後四半期毎の安定性も確保されていくかはチェック。



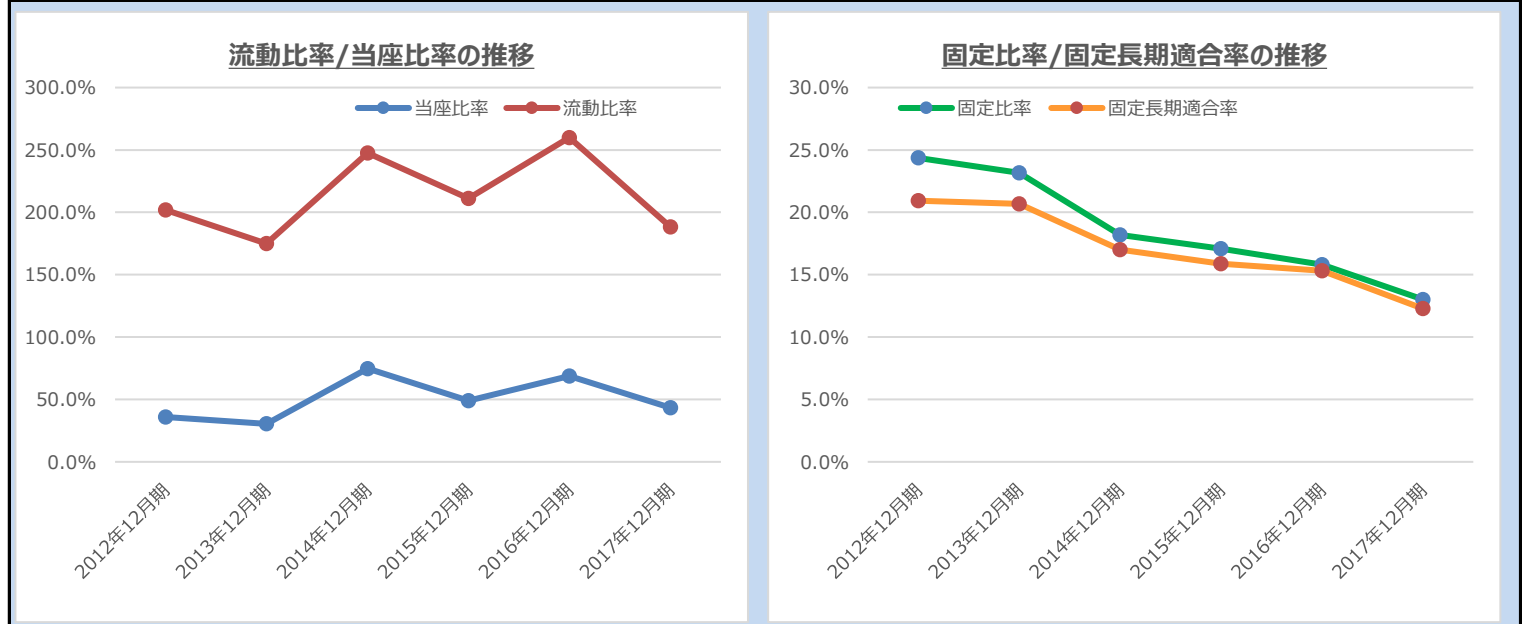
不動産事業は増収増益基調が続き好調。建築事業は利益が水面下でなかなか浮上せず課題。



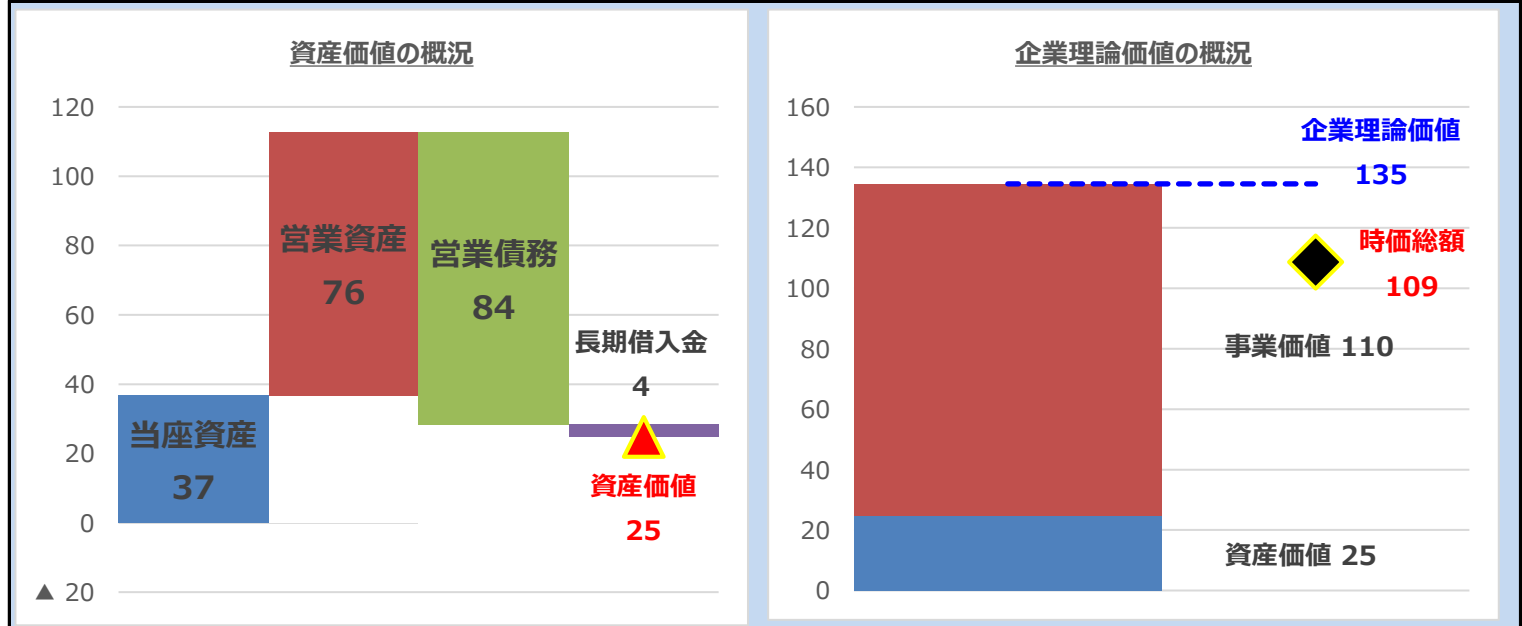
四半期毎の凹凸が大きいのものの、ボリュームは増加傾向。



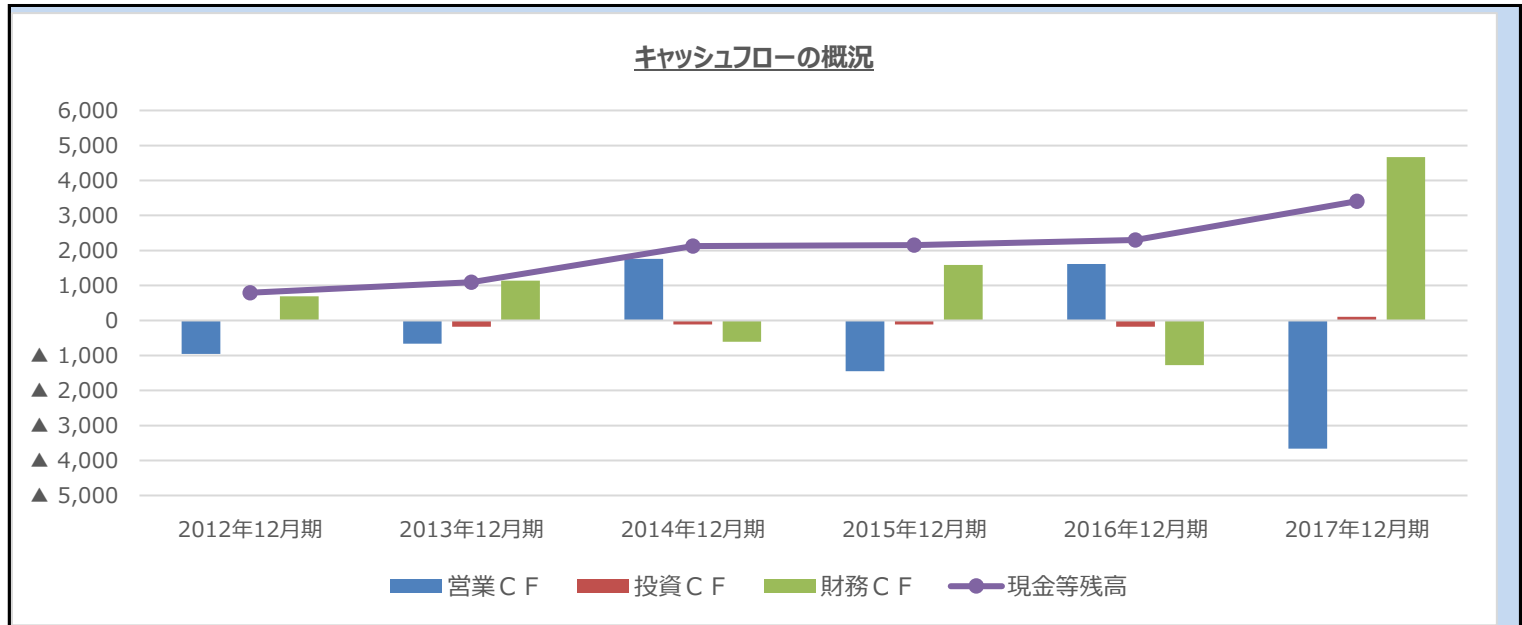
上記同様で四半期単位の推移は参考情報。



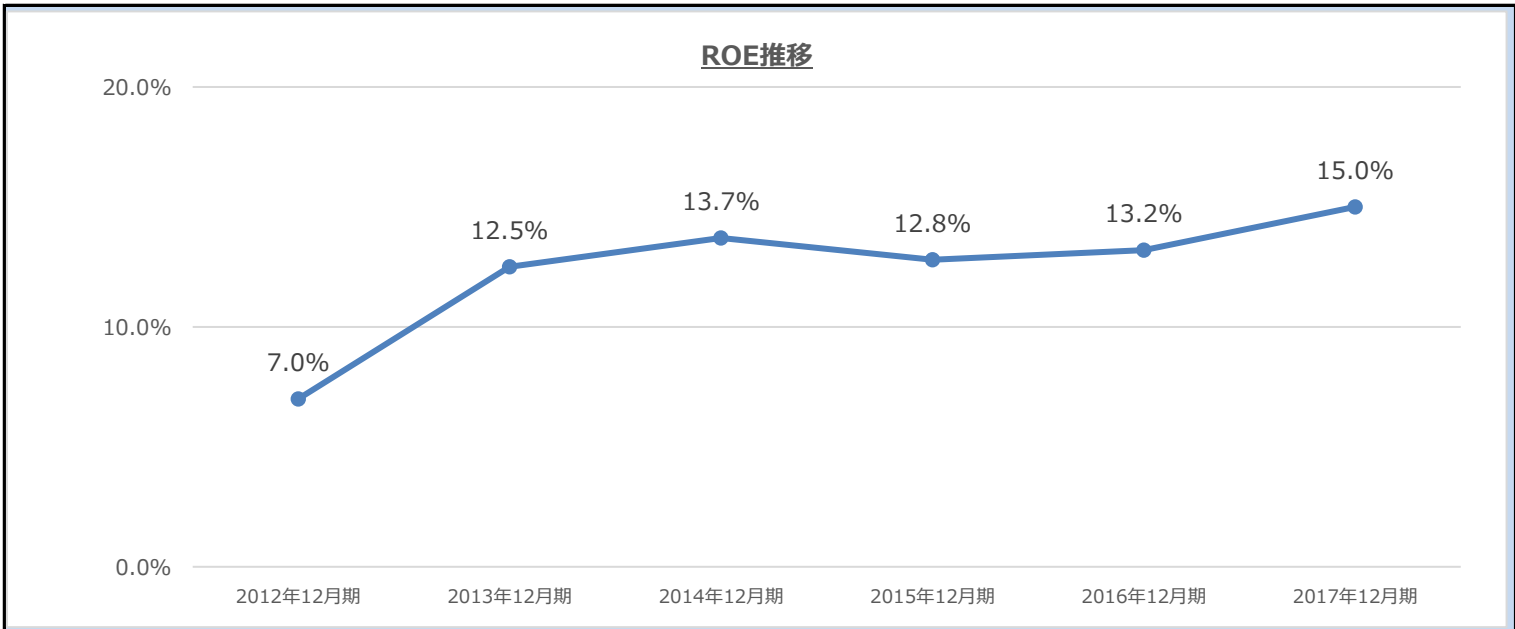
現金の減少により当座比率が低位であるものの、流動比率は引き続き安全圏で推移。固定比率は流動負債に依存しており、低位となっている。



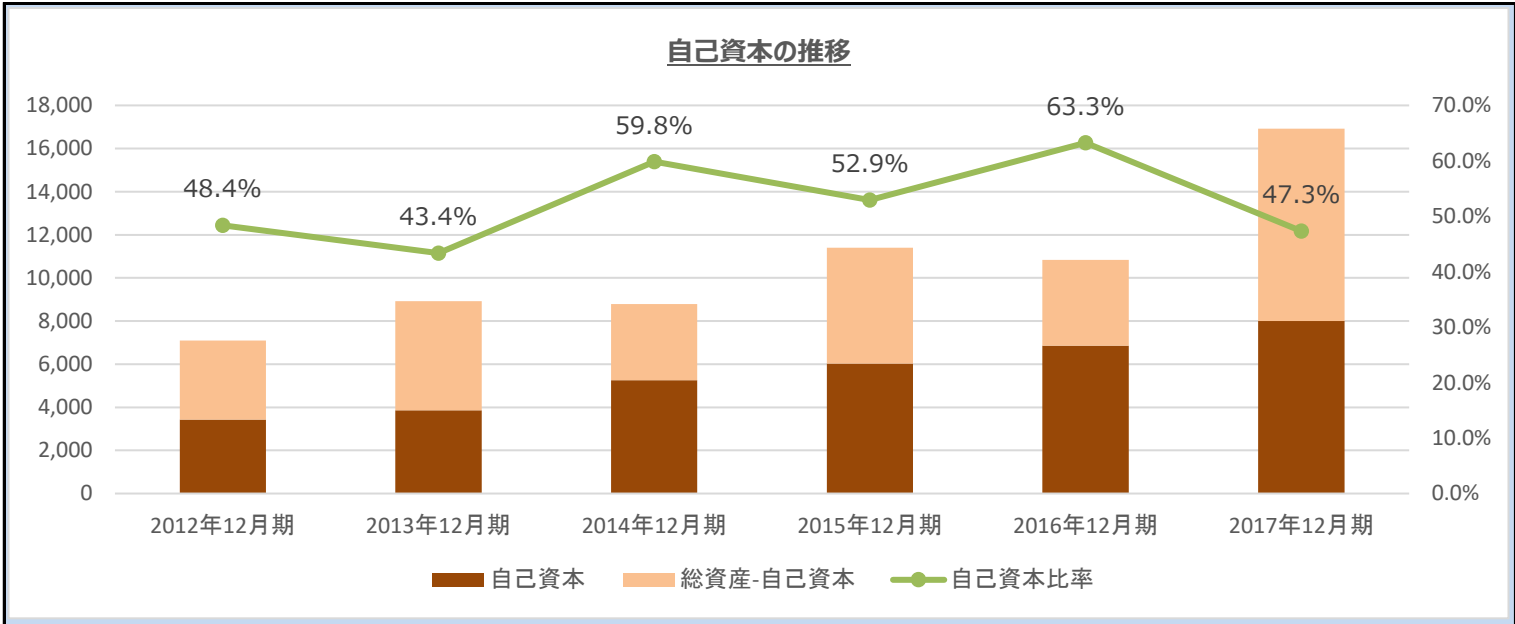
資産価値は流動負債も多く価値は大きくないものの、事業価値を加算すると現状の時価総額は割安水準とみえる。



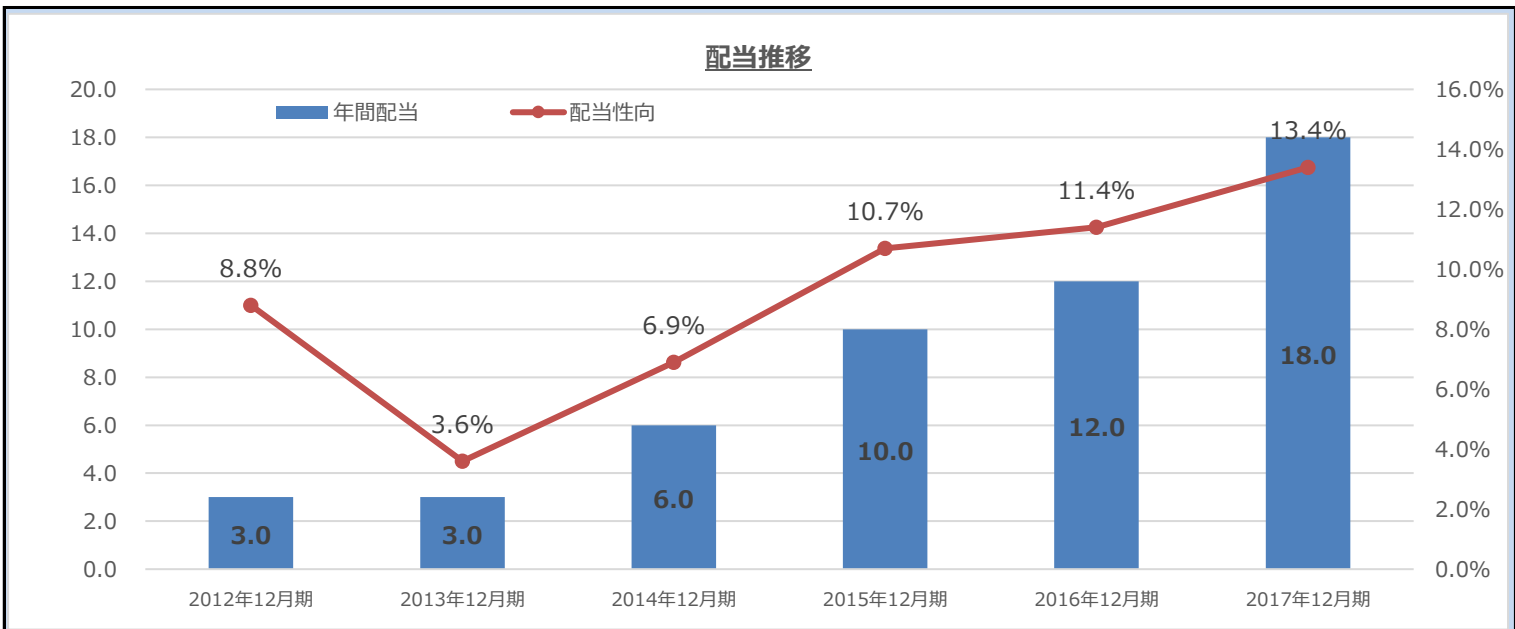
直近17年3月期の営業CFは物件仕入のため。財務CFで短期借入金で充当して現金水準は維持されている。ややレバレッジが効いた状態。



ROEは順調に向上しており、還元性も高くないため、成長力が高いことを示している。



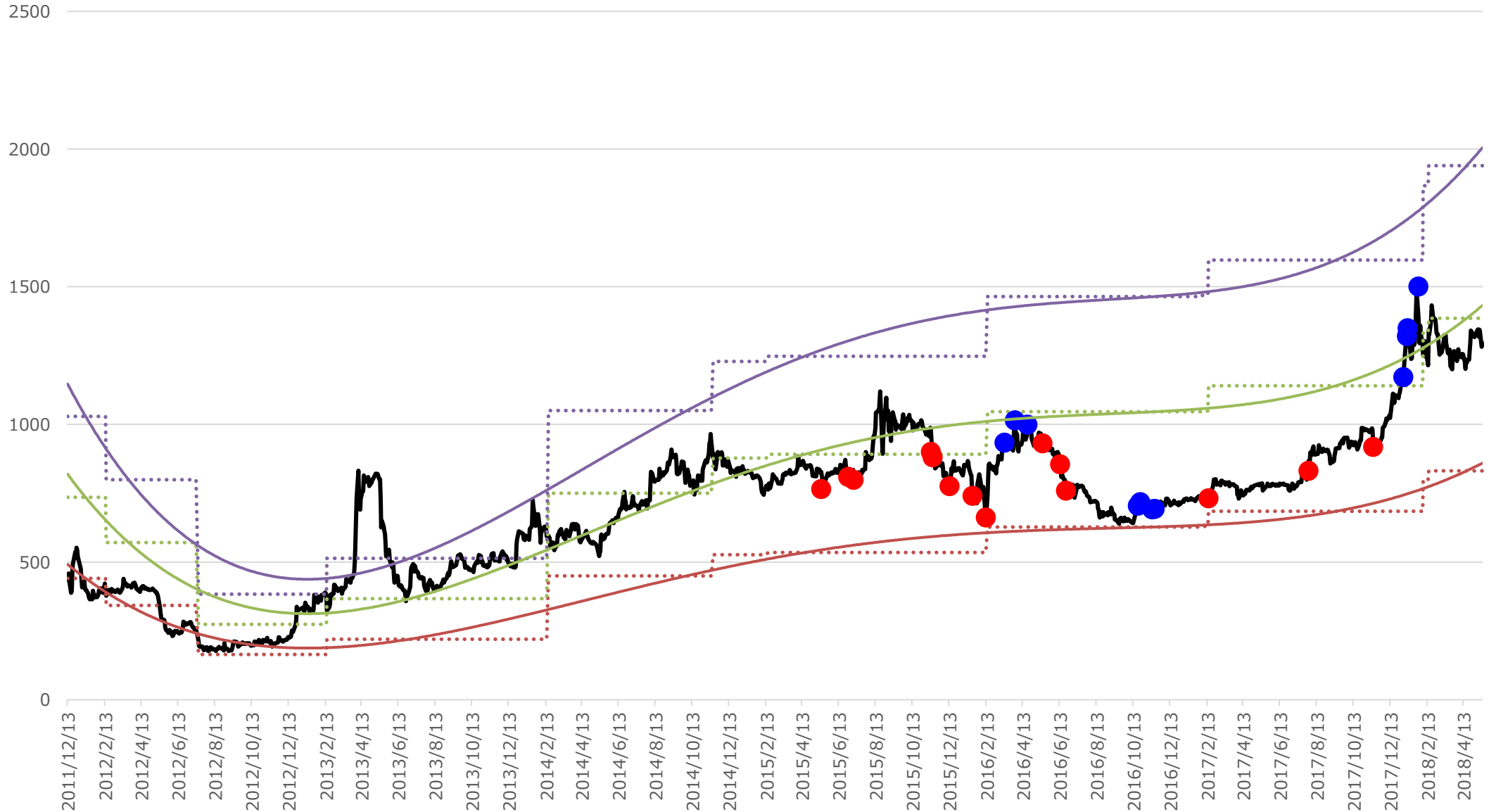
短期借入金による仕入物件の確保により、総資産は積み上がったものの自己資本比率は低下。



成長に伴い安定増配を継続。今後もその方針を示して還元にも配慮。今期予想は更に増配で18円、配当性向は20%超の予定。

3277 サンセイランディック 株価推移

— 株価 ● PER 6 ● PER 10 ● PER 14 ● 買 ● 売



株価は緩やかに右肩上がりであるが昨年は利益成長に株価が伴わず苦戦。その分の反動もあり、直近で高値圏。